

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成30年8月3日

【四半期会計期間】 第116期第1四半期(自 平成30年4月1日 至 平成30年6月30日)

【会社名】 株式会社京都銀行

【英訳名】 The Bank of Kyoto , Ltd.

【代表者の役職氏名】 取締役頭取 土 井 伸 宏

【本店の所在の場所】 京都市下京区烏丸通松原上る薬師前町700番地

【電話番号】 京都(075)361局2211番

【事務連絡者氏名】 経営企画部長 本 政 悦 治

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区丸の内1丁目8番2号
株式会社京都銀行 経営企画部 東京事務所

【電話番号】 東京(03)6212局3813番

【事務連絡者氏名】 経営企画部 東京事務所長 中 井 秀 治

【縦覧に供する場所】 株式会社京都銀行 大阪営業部
(大阪市中央区高麗橋2丁目2番14号)

株式会社京都銀行 東京営業部
(東京都千代田区丸の内1丁目8番2号)

株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第 1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

		平成29年度第 1 四半期 連結累計期間	平成30年度第 1 四半期 連結累計期間	平成29年度
		(自 平成29年 4 月 1 日 至 平成29年 6 月30日)	(自 平成30年 4 月 1 日 至 平成30年 6 月30日)	(自 平成29年 4 月 1 日 至 平成30年 3 月31日)
経常収益	百万円	30,473	33,556	110,232
経常利益	百万円	10,079	11,941	26,931
親会社株主に帰属する 四半期純利益	百万円	8,862	8,735	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	百万円	-	-	19,323
四半期包括利益	百万円	81,664	19,637	-
包括利益	百万円	-	-	174,300
純資産額	百万円	845,705	910,480	932,365
総資産額	百万円	8,781,886	9,319,633	9,478,592
1 株当たり四半期純利益	円	117.22	115.69	-
1 株当たり当期純利益	円	-	-	255.89
潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益	円	116.98	115.49	-
潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益	円	-	-	255.46
自己資本比率	%	9.52	9.73	9.80

(注) 1 当行及び国内連結子会社の消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜き方式によっております。

2 平成29年10月 1 日付で 5 株を 1 株に株式併合しております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して 1 株当たり四半期（当期）純利益及び潜在株式調整後 1 株当たり四半期（当期）純利益を算出しております。

3 自己資本比率は、((四半期)期末純資産の部合計 - (四半期)期末新株予約権 - (四半期)期末非支配株主持分)を(四半期)期末資産の部の合計で除して算出しております。

2 【事業の内容】

当第 1 四半期連結累計期間において、当行グループ（当行及び当行の関係会社）が営む事業の内容については、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても、異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間における、本四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在しておりません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

財政状態及び経営成績の状況

当第1四半期連結会計期間末の主要勘定については、預金・譲渡性預金は、個人預金が増加したものの、法人預金等が減少したことから、前連結会計年度末比1,006億円減少し、7兆6,985億円となりました。

貸出金は、個人・法人向けともに積極的に対応した結果、前連結会計年度末比455億円増加し、5兆3,118億円となりました。

有価証券は、市場動向を注視しつつ、適切な運用に努めた結果、前連結会計年度末比1,099億円減少し、2兆9,674億円となりました。なお、時価会計に伴う評価差額(含み益)は、前連結会計年度末比414億円減少し、7,107億円となっております。

また、総資産は、前連結会計年度末比1,589億円減少し、9兆3,196億円となり、株主資本は、利益剰余金の増加により前連結会計年度末比64億円増加し、4,172億円となりました。

次に、当第1四半期連結累計期間の損益状況については、経常収益は、資金運用収益を中心に前年同期比30億83百万円増加し、335億56百万円となりました。経常費用は、営業経費を中心に前年同期比12億20百万円増加し、216億15百万円となり、この結果、経常利益は、前年同期比18億62百万円増加し、119億41百万円となりました。

一方、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期に特別利益に計上した退職給付制度改定益の剥落により、前年同期比1億27百万円減少し、87億35百万円となりました。

当第1四半期連結累計期間のセグメント別の業績につきましては、当行グループの中心である銀行業において、経常収益は前年同期比29億21百万円増加し、312億10百万円となり、セグメント利益は、前年同期比16億15百万円増加し、112億84百万円となりました。

また、その他において、経常収益は、前年同期比1億91百万円増加し、30億67百万円となり、セグメント利益は、前年同期比2億33百万円増加し、6億56百万円となりました。

(参考)

国内業務部門・国際業務部門別収支

当第1四半期連結累計期間の資金運用収支は、国内業務部門で前年同期比1,362百万円増加し、21,532百万円となり、国際業務部門で前年同期比60百万円増加し、527百万円となったことから、全体では前年同期比1,422百万円増加し、22,060百万円となりました。

役務取引等収支は、国内業務部門で前年同期比243百万円増加し、3,370百万円となり、国際業務部門で前年同期比4百万円増加し、45百万円となったことから、全体では前年同期比248百万円増加し、3,415百万円となりました。

その他業務収支は、国内業務部門で前年同期比70百万円減少し、505百万円となり、国際業務部門で前年同期比297百万円減少し、120百万円となったことから、全体では前年同期比368百万円減少し、385百万円となりました。

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
資金運用収支	前第1四半期連結累計期間	20,170	467	20,637
	当第1四半期連結累計期間	21,532	527	22,060
うち資金運用収益	前第1四半期連結累計期間	20,774	1,193	21,967
	当第1四半期連結累計期間	21,931	1,884	23,815
うち資金調達費用	前第1四半期連結累計期間	603	726	1,329
	当第1四半期連結累計期間	398	1,356	1,754
役務取引等収支	前第1四半期連結累計期間	3,127	40	3,167
	当第1四半期連結累計期間	3,370	45	3,415
うち役務取引等収益	前第1四半期連結累計期間	4,806	71	4,877
	当第1四半期連結累計期間	5,132	74	5,206
うち役務取引等費用	前第1四半期連結累計期間	1,679	31	1,710
	当第1四半期連結累計期間	1,762	29	1,791
その他業務収支	前第1四半期連結累計期間	576	176	752
	当第1四半期連結累計期間	505	120	625
うちその他業務収益	前第1四半期連結累計期間	1,956	271	2,227
	当第1四半期連結累計期間	1,659	150	1,809
うちその他業務費用	前第1四半期連結累計期間	1,380	94	1,474
	当第1四半期連結累計期間	1,154	271	1,425

- (注) 1 「国内業務部門」は当行の国内店及び国内に本店を有する連結子会社(以下「国内連結子会社」という)の円建取引、「国際業務部門」は当行の国内店の外貨建取引であります。ただし、円建対非居住者取引、特別国際金融取引勘定分等は国際業務部門に含めております。
- 2 資金調達費用は金銭の信託運用見合費用(前第1四半期連結累計期間3百万円、当第1四半期連結累計期間1百万円)を控除して表示しております。
- 3 資金運用収益及び資金調達費用の合計欄の上段の計数は、国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借の利息であります。

国内業務部門・国際業務部門別役務取引の状況

当第1四半期連結累計期間の役務取引等収益は、国内業務部門で前年同期比325百万円増加し、5,132百万円となり、国際業務部門で前年同期比3百万円増加し、74百万円となったことから、全体では前年同期比329百万円増加し、5,207百万円となりました。

役務取引等費用は、国内業務部門で前年同期比82百万円増加し、1,762百万円となり、国際業務部門で前年同期比1百万円減少し、29百万円となったことから、全体では前年同期比80百万円増加し、1,791百万円となりました。

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
役務取引等収益	前第1四半期連結累計期間	4,806	71	4,878
	当第1四半期連結累計期間	5,132	74	5,207
うち預金・貸出業務	前第1四半期連結累計期間	824	-	824
	当第1四半期連結累計期間	958	-	958
うち為替業務	前第1四半期連結累計期間	1,111	70	1,181
	当第1四半期連結累計期間	1,112	73	1,186
うち証券関連業務	前第1四半期連結累計期間	50	-	50
	当第1四半期連結累計期間	62	-	62
うち代理業務	前第1四半期連結累計期間	100	-	100
	当第1四半期連結累計期間	93	-	93
うち保護預り・貸金庫業務	前第1四半期連結累計期間	407	-	407
	当第1四半期連結累計期間	411	-	411
うち保証業務	前第1四半期連結累計期間	414	0	415
	当第1四半期連結累計期間	437	0	437
うち投資信託・保険販売業務	前第1四半期連結累計期間	762	-	762
	当第1四半期連結累計期間	894	-	894
役務取引等費用	前第1四半期連結累計期間	1,679	31	1,710
	当第1四半期連結累計期間	1,762	29	1,791
うち為替業務	前第1四半期連結累計期間	193	20	214
	当第1四半期連結累計期間	197	17	215

(注) 「国内業務部門」は当行の国内店及び国内連結子会社の円建取引、「国際業務部門」は当行の国内店の外貨建取引であります。ただし、円建対非居住者取引、特別国際金融取引勘定分等は国際業務部門に含めております。

国内業務部門・国際業務部門別預金残高の状況

○ 預金の種類別残高(末残)

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
預金合計	前第1四半期連結会計期間	6,516,199	171,080	6,687,279
	当第1四半期連結会計期間	6,756,469	179,825	6,936,295
うち流動性預金	前第1四半期連結会計期間	3,921,795	-	3,921,795
	当第1四半期連結会計期間	4,153,705	-	4,153,705
うち定期性預金	前第1四半期連結会計期間	2,554,868	-	2,554,868
	当第1四半期連結会計期間	2,562,260	-	2,562,260
うちその他	前第1四半期連結会計期間	39,535	171,080	210,616
	当第1四半期連結会計期間	40,503	179,825	220,329
譲渡性預金	前第1四半期連結会計期間	722,980	-	722,980
	当第1四半期連結会計期間	762,222	-	762,222
総合計	前第1四半期連結会計期間	7,239,180	171,080	7,410,260
	当第1四半期連結会計期間	7,518,691	179,825	7,698,517

(注) 1 流動性預金 = 当座預金 + 普通預金 + 貯蓄預金 + 通知預金

2 定期性預金 = 定期預金 + 定期積金

3 「国内業務部門」は当行の国内店の円建取引、「国際業務部門」は当行の国内店の外貨建取引であります。
ただし、円建対非居住者取引、特別国際金融取引勘定等は国際業務部門に含めております。

国内貸出金残高の状況

○ 業種別貸出状況(末残・構成比)

業種別	前第1四半期連結会計期間		当第1四半期連結会計期間	
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)
国内(除く特別国際金融取引勘定分)	4,954,123	100.00	5,311,854	100.00
製造業	844,166	17.04	910,093	17.13
農業、林業	2,620	0.05	3,045	0.06
漁業	77	0.00	71	0.00
鉱業、採石業、砂利採取業	16,168	0.33	19,903	0.37
建設業	121,361	2.45	127,077	2.39
電気・ガス・熱供給・水道業	66,719	1.35	73,371	1.38
情報通信業	59,082	1.19	47,045	0.89
運輸業、郵便業	198,323	4.00	209,114	3.94
卸売業、小売業	516,524	10.43	532,521	10.03
金融業、保険業	174,157	3.52	198,402	3.74
不動産業、物品賃貸業	598,706	12.09	676,241	12.73
各種サービス業	374,629	7.56	392,564	7.39
地方公共団体	513,242	10.36	570,728	10.74
その他	1,468,342	29.63	1,551,672	29.21
特別国際金融取引勘定分	-	-	-	-
政府等	-	-	-	-
金融機関	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
合計	4,954,123	——	5,311,854	——

3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	200,000,000
計	200,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成30年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成30年8月3日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	75,840,688	75,840,688	東京証券取引所 市場第1部	単元株式数は100株で あります。
計	75,840,688	75,840,688	—	—

(注) 提出日現在発行数には、平成30年8月1日から四半期報告書を提出する日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成30年4月1日～ 平成30年6月30日	—	75,840	—	42,103	—	30,301

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成30年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成30年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 331,900	—	単元株式数100株
完全議決権株式(その他)	普通株式 75,311,500	753,115	単元株式数100株
単元未満株式	普通株式 197,288	—	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	75,840,688	—	—
総株主の議決権	—	753,115	—

(注) 「単元未満株式数」の欄には、当行所有の自己株式39株が含まれております。

【自己株式等】

平成30年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社京都銀行	京都市下京区烏丸通松原 上る薬師前町700番地	331,900	—	331,900	0.43
計	—	331,900	—	331,900	0.43

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

- 1 当行の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しておりますが、資産及び負債の分類並びに収益及び費用の分類は、「銀行法施行規則」(昭和57年大蔵省令第10号)に準拠しております。
- 2 当行は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(自平成30年4月1日至平成30年6月30日)及び第1四半期連結累計期間(自平成30年4月1日至平成30年6月30日)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツの四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年 3 月31日)	当第 1 四半期連結会計期間 (平成30年 6 月30日)
資産の部		
現金預け金	854,822	763,757
コールローン及び買入手形	47,348	43,541
買入金銭債権	12,847	13,110
商品有価証券	125	174
金銭の信託	48,033	30,093
有価証券	² 3,077,351	² 2,967,425
貸出金	¹ 5,266,282	¹ 5,311,854
外国為替	20,606	30,809
リース債権及びリース投資資産	10,417	10,447
その他資産	55,674	64,797
有形固定資産	78,670	78,128
無形固定資産	2,996	2,972
繰延税金資産	1,471	1,469
再評価に係る繰延税金資産	5	5
支払承諾見返	23,961	22,865
貸倒引当金	22,021	21,820
資産の部合計	9,478,592	9,319,633
負債の部		
預金	6,878,975	6,936,295
譲渡性預金	920,153	762,222
コールマネー及び売渡手形	26,560	151,054
債券貸借取引受入担保金	303,360	194,431
借入金	110,141	74,660
外国為替	210	131
その他負債	41,284	37,793
退職給付に係る負債	30,267	30,091
睡眠預金払戻損失引当金	336	336
偶発損失引当金	916	913
繰延税金負債	210,059	198,356
支払承諾	23,961	22,865
負債の部合計	8,546,227	8,409,152

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年 3 月31日)	当第 1 四半期連結会計期間 (平成30年 6 月30日)
純資産の部		
資本金	42,103	42,103
資本剰余金	34,332	34,332
利益剰余金	336,148	342,618
自己株式	1,813	1,816
株主資本合計	410,771	417,238
その他有価証券評価差額金	523,550	494,749
繰延ヘッジ損益	1,382	1,036
土地再評価差額金	13	13
退職給付に係る調整累計額	3,318	3,220
その他の包括利益累計額合計	518,836	490,479
新株予約権	511	532
非支配株主持分	2,246	2,230
純資産の部合計	932,365	910,480
負債及び純資産の部合計	9,478,592	9,319,633

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

	(単位：百万円)	
	前第1四半期連結累計期間 (自 平成29年 4月 1日 至 平成29年 6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成30年 4月 1日 至 平成30年 6月30日)
経常収益	30,473	33,556
資金運用収益	21,964	23,811
(うち貸出金利息)	11,310	11,368
(うち有価証券利息配当金)	10,433	11,990
役務取引等収益	4,878	5,207
その他業務収益	2,227	1,810
その他経常収益	¹ 1,401	¹ 2,726
経常費用	20,394	21,615
資金調達費用	1,330	1,752
(うち預金利息)	644	923
役務取引等費用	1,710	1,791
その他業務費用	1,474	1,425
営業経費	15,365	16,055
その他経常費用	² 512	² 589
経常利益	10,079	11,941
特別利益	2,285	-
固定資産処分益	0	-
退職給付制度改定益	2,285	-
特別損失	28	2
固定資産処分損	28	2
その他の特別損失	-	0
税金等調整前四半期純利益	12,336	11,939
法人税、住民税及び事業税	433	2,420
法人税等調整額	2,869	758
法人税等合計	3,302	3,179
四半期純利益	9,033	8,759
非支配株主に帰属する四半期純利益	171	23
親会社株主に帰属する四半期純利益	8,862	8,735

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年6月30日)
四半期純利益	9,033	8,759
その他の包括利益	72,630	28,397
その他有価証券評価差額金	71,800	28,841
繰延ヘッジ損益	131	345
退職給付に係る調整額	699	98
四半期包括利益	81,664	19,637
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	81,474	19,621
非支配株主に係る四半期包括利益	190	16

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

当第1四半期連結累計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年6月30日)

1 税金費用の処理

連結子会社の税金費用は、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じることにより算定しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 貸出金のうち、リスク管理債権は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
破綻先債権額	3,963百万円	4,587百万円
延滞債権額	65,792百万円	64,553百万円
3か月以上延滞債権額	6百万円	18百万円
貸出条件緩和債権額	387百万円	388百万円
合計額	70,150百万円	69,547百万円

なお、上記債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。

2 「有価証券」中の社債のうち、有価証券の私募（金融商品取引法第2条第3項）による社債に対する保証債務の額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
	25,676百万円	26,843百万円

(四半期連結損益計算書関係)

1 その他経常収益には、次のものを含んでおります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年6月30日)
株式等売却益	240百万円	1,940百万円
金銭の信託運用益	142百万円	150百万円

2 その他経常費用には、次のものを含んでおります

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年6月30日)
株式等売却損	34百万円	189百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年6月30日)
減価償却費	1,081百万円	1,029百万円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年6月29日 定時株主総会	普通株式	2,268	6.00	平成29年3月31日	平成29年6月30日	その他利益 剰余金

当第1四半期連結累計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成30年6月28日 定時株主総会	普通株式	2,265	30.00	平成30年3月31日	平成30年6月29日	その他利益 剰余金

(注) 平成29年10月1日付で5株を1株に株式併合しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)

報告セグメントごとの経常収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント	その他	合計	調整額	四半期連結損益 計算書計上額
	銀行業				
経常収益					
外部顧客に対する経常収益	28,044	2,428	30,473	-	30,473
セグメント間の内部経常収益	243	447	691	691	-
計	28,288	2,875	31,164	691	30,473
セグメント利益	9,668	423	10,092	12	10,079

- (注) 1 一般企業の売上高に代えて、それぞれ経常収益を記載しております。
2 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、信用保証業、リース業、クレジットカード業、証券業等を含んでおります。
3 セグメント利益の調整額 12百万円は、セグメント間取引消去であります。
4 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年6月30日)

報告セグメントごとの経常収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント	その他	合計	調整額	四半期連結損益 計算書計上額
	銀行業				
経常収益					
外部顧客に対する経常収益	30,962	2,594	33,556	-	33,556
セグメント間の内部経常収益	248	473	721	721	-
計	31,210	3,067	34,278	721	33,556
セグメント利益	11,284	656	11,940	0	11,941

- (注) 1 一般企業の売上高に代えて、それぞれ経常収益を記載しております。
2 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、信用保証業、リース業、クレジットカード業、証券業等を含んでおります。
3 セグメント利益の調整額 0百万円は、セグメント間取引消去であります。
4 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

		前第 1 四半期連結累計期間 (自 平成29年 4 月 1 日 至 平成29年 6 月30日)	当第 1 四半期連結累計期間 (自 平成30年 4 月 1 日 至 平成30年 6 月30日)
(1) 1 株当たり四半期純利益	円	117.22	115.69
(算定上の基礎)			
親会社株主に帰属する 四半期純利益	百万円	8,862	8,735
普通株主に帰属しない金額	百万円	-	-
普通株式に係る親会社株主に 帰属する四半期純利益	百万円	8,862	8,735
普通株式の期中平均株式数	千株	75,608	75,508
(2) 潜在株式調整後 1 株当たり 四半期純利益	円	116.98	115.49
(算定上の基礎)			
親会社株主に帰属する 四半期純利益調整額	百万円	-	-
普通株式増加数	千株	152	130
希薄化効果を有しないため、潜在 株式調整後 1 株当たり四半期純利 益の算定に含めなかった潜在株式 で、前連結会計年度末から重要な 変動があったものの概要		-	-

(注) 平成29年10月 1 日付で 5 株を 1 株に株式併合しております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して 1 株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益を算定しております。

(重要な後発事象)

当第 1 四半期連結累計期間(自 平成30年 4 月 1 日 至 平成30年 6 月30日)

株式報酬型ストック・オプション(新株予約権)の発行

平成30年 7 月30日に以下のとおり新株予約権の割当てを行っております。

1 新株予約権の総数

876個

2 新株予約権割当ての対象者及びその人数並びに割り当てる新株予約権の数

対象者	人数	新株予約権
当行の取締役(社外取締役を除く)	9名	698個
当行の執行役員	10名	178個
合 計	19名	876個

3 新株予約権の目的となる株式の種類及び数

当行普通株式 17,520株

4 新株予約権の払込金額

新株予約権 1 個当たり 109,000円(1 株当たり 5,450円)

5 新株予約権を行使できる期間

2018年 7 月31日から2048年 7 月30日までの間とする。

ただし、権利行使期間の最終日が当行の休業日に当たるときは、その前営業日を最終日とする。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年 8 月 2 日

株式会社京都銀行
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 山 口 弘 志

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 大 竹 新

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社京都銀行の平成30年4月1日から平成31年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成30年4月1日から平成30年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成30年4月1日から平成30年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社京都銀行及び連結子会社の平成30年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- （注）1．上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当行（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2．XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。